

登録コード	SG332102	開講年度	2026					
授業題目	生物学概論Ⅱ				担当教員	山本 雅道		
英文授業名	General biology Ⅱ				副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限		対象学年	1・2年
講義室	理学部第3講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】		
	26Sカリ, 25Sカリ, 24Sカリ, 23Sカリ							
	【2023年度以降カリキュラム対象】 幅広い教養および理学の基礎知識				⇔	幅広い教養と生物学の基礎知識		
	【2023年度以降カリキュラム対象】 理学の各分野における専門知識				⇔	生物学の各分野における専門知識		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	物理的環境、一般教養としての生物学を身につける。生物の特徴では、細胞、組織、個体のレベルについて復習し、個体群、群集レベルを対象とした、生物と環境との相互作用の基礎的な知識や概念を学ぶ。その上で、「増大した人間活動が、私たちの生活や自然、地球環境にどのような影響を及ぼしているのか?」という最近の環境問題の理解を深める。 的環境、個体レベル、個体群レベル、群集レベル、生態系レベルの生態学について学んだ後、増大した人間活動による生態系の攪乱（環境問題）を考える。							
(5)授業のキーワード	生物圏,生態学、環境、人間活動							
(6)授業計画	第1回：生物学の基礎1：細胞でできている 第2回：生物学の基礎 2：生殖によってふえる 第3回：生物学の基礎 3：形質は遺伝によって伝えられる 第4回：生物学の基礎 4：エネルギーを消費して生活している 第5回：生物学の基礎 5：体内の条件を恒常に保つように調節している 第6回：生物学の基礎 6：刺激に対して反応する 第7回：生物学の基礎 7：集団で生きている 第8回：生物圏としての地球と物理科学的環境 第9回：個体群 競争 共生 人口問題 生活史戦略 第10回：生態系諸過程 第11回：物質生産と物質循環 第12回：生態系1：陸上 第13回： 2：水界 第14回：生物圏 第15回：現在の環境問題、授業アンケート 第16回：最終試験							
(7)成績評価の方法	最終試験で評価する。60点未満は不可、60点以上70点未満は可、70点以上80点未満は良、80点以上90点未満は優、90点以上は秀、とする。							
(8)成績評価の基準	授業時に実施した小テストと同じレベルの問題が解ければ「水準にある」、ちょっとした応用問題が解ければ「やや上にある」、応用問題が解ければ「かなり上にある」、記述式の解答で論理的に書けていれば「卓越している」。							
(9)事前事後学習の内容	事前学習：シラバスの授業計画の項目について、事前に教科書の該当部分に目を通しておく。 事後学習：不明な点があれば、参考書等で調べる。興味を持った点があれば、インターネット等で調べさらに掘り下げるとよい。							
(10)履修上の注意	随時実施する小テスト答案を5回以上提出することが最終試験の受験資格である。							
(11)質問,相談への対応	C605に直接来て下さい。 メールでの質問も可能です。							
【教科書】	(使わない) 随時資料配布。							
【参考書】	「生態学キーノート」A. Mackenzie他著、岩城英夫訳、丸善出版 (2012/2/29)、ISBN-13: 978-4621061299、3,456円 (税込) あれば高校の生物の教科書							